

## 【ねらい】

- 狭いスペースを上手にを使って、幼児から小学校低学年までが、適度に身体を動かしながら一緒に楽しむ。
- ボール遊びの楽しさを体験するとともに、ボールの特性を身体で覚える。

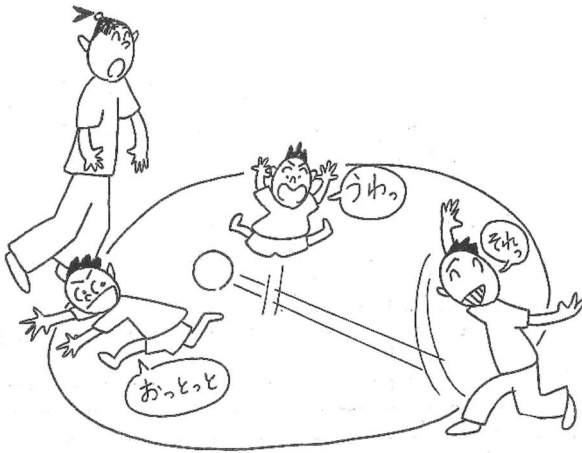
## 転がしドッジボール

### 【準備】

- ① 地面や床に、子どもたちが軽く動き回れる程度の大きさの円を描く。
- ② ソフトバレーボールなどの柔らかいボールを用意する。

### 【進め方】

- ① 2～3人のおとなが、外野としてコートの外に立つ。子どもたちは、内野としてコートの中に入る。
- ② 外野は、内野目掛けてボールを転がし入れる。その際、コートの外で一度バウンドさせなければならない。
- ③ 内野は腰から下がボールに触れたらアウト。
- ④ 加えて、ボールを手で持つのもアウト。
- ⑤ アウトになったらコートの外に出る。
- ⑥ 最後まで残った子どもが優勝。



## ガガ

### 【準備】

- ① コートの周囲にボールがバウンドする囲みを作る。(部屋の隅の壁や、長机を使っても可能。)
- ② ソフトバレーボールなどの柔らかいボールを用意する。

### 【進め方】

- ① コートの外からボールを投げ入れる。ボールのバウンドに合わせて、全員で「ガ・ガ・ボール」とコールする。このコールが終わるまで(つまりボールが3回バウンドするまで)、誰もボールに触れられない。(触れたらアウト。)ボールが3回バウンドしたらゲーム開始。
- ② ボールを手でたたくことを「タッチ」という。誰でもボールにタッチできるが、手に持ったり、投げたりすることはできない。片手、または両手の手のひらでタッチするのみ。タッチして人に直接当てるか、周りの壁に反射させて当てるようにする。
- ③ タッチしたボールが膝より下に当たったらアウト。コートの外に出なければならない。
- ④ 通常、同じ人がボールを2回、続けてタッチしてはいけない。しかし、最後の2人になった場合、1人の人がボールを3回までタッチできる。
- ⑤ 最後まで、逃げ切れた人が勝ち。

### 【援助のポイント】

- ① 普段はボールを「キャッチする」ことや「投げる」ことが多いため、ウォーミングアップに、「ボールのたたき方」を練習するとよい。  
2人組で「たたきあい」キャッチボールをする。または、みんなで円形になり、たたきあいキャッチを練習する。
- ② 囲いの中に入った時、周りの壁(机等)を触ったり、もたれたりしないように伝える。

### 【アレンジのアイデア】

#### 転がしドッジボール、及びガガ

- ① ソフトラクビーボールなどを使用すると予測不能になり、おもしろい。子どもの動きも柔軟になる。
- ② なれてきたら、ボールの数を増やすことで、子どもの集中力や活動量を増やしてもよい。
- ③ 外野に出た人の救済方法を子どもたちと考えるのもよい。(自分をアウトにした人がアウトになったら復活するなど)